



ほっとするね
緑の府中

指導室だより

第 68 号

編集・発行 府中市教育委員会教育部指導室

〒183-8703 府中市宮西町2-24

電話 042-335-4063



学校と地域

府中市立府中第四小学校

校長 鈴木 清

に属する自治会・町内会・老人会・民生児童委員などの市民活動(地縁団体)がある。後者の活動は、住民相互の顔の見える場となり、相互の信頼を築く基盤をつくり、ソーシャルキャピタルの形成に、より大きな影響を与えるそうである。

府中市学校教育プラン21の第3期がこの4月よりスタートした。変化する社会状況に合わせて再構築され、重点課題6項目の中の②には「知・徳・体に加え地域を核とした教育実践」、また⑤には「学校・家庭・地域連携・協力」が設定されている。

じさんの持つ豊かな知恵や生きてきた歴史を知り、「おじさんてすごいんだ。」と目を丸くして見方を一変することが常である。

地域の人材や施設を学校教育に生かすことは、本校でも生活科や総合的な学習には留まらず、教育活動の全般に渡って広く行われてきている。

このように子どもたちは地域の人々とのふれ合いや様々な施設との交流の中で、バーチャルではなく、実感を通して学び、血の通った人間としての温かさや力強さを学習している。

毎年の活動として定着したもののや一過性のもも含め、内容も様々である。またその形態は支援型や交流型、そして授業を共に作り上げる参画型もある。

今、団塊世代の大量退職社会を迎え、地域には有能な人材が潜在化してきている。その人的財産の可能性が地域を核とした教育実践の中で、どのような形で花開くかということも、学校の課題のひとつと考える。

本校の三年生は、日々交通整理のため児童と関わる方を招いて「七輪体験と昔の話」を実施している。この身近なおじさんとの交流の中で子どもたちはお

今や「教育は学校教育だけでなく社会全体がかかわる大事な事業である。」ということは世界の教育界の流れであり、殊にOECDの国々は認識を新たにしている。知識量でなく知識の活用や応用力が問われるPIISA(OECDの学習到達度調査)で注目を浴びたフィンランドの学校管理職はソーシャルキャピタルの蓄積に相当の時間を当てていると言われる。

ソシヤルキャピタル(社会関係資本)という言葉がある。これは人々が持つ信頼関係や社会的ネットワークによる人間関係を表す指標であり、教育の世界でも注目されている。その理

ソシヤル・キャピタルには新しいタイプの市民活動(NPOなど)と、地縁ネットワーク

昨年、地域の方から、「自治会も含め、学校に係る諸団体も一緒になって、地域での子どもたちの安全安心をテーマに考える場を持ちたい。」と申し出をいただき、一同に会した。

地域の方々の安全に対する考え方や行動を改善していくことにもなり、ひいては地域の教育力を高めることになると考える。

また、昨年始まった放課後子供教室(NPO)に本校で5年間続く隔週土曜朝実施される青空教室(地縁団体)と一緒に、内容豊かな「教室」へと工夫と改善を図っている。

学校が核となってNPOや地縁団体と関わることによるソーシャル・キャピタルの蓄積がどのような展開を見せるのか、校長として大いに期待を寄せているところである。

1. はじめに
府中市特別支援相談室の巡回相談は、今年度で4年目を迎えた。年々、巡回相談の存在を広



よろしくお願いいたします

④特別支援相談室

巡回相談

「20年度の活動を振り返って」②

巡回相談員

中嶋 祐子

く校内で認知していただけるようになり、先生方のご理解やご協力に深く感謝するとともに、さらなる課題に向かうべく、身の引き締まる思いである。

2. 府中市の巡回相談

府中市の巡回相談は、発達障害及びその傾向が疑われる児童等、特別な教育的支援を必要とする児童だけでなく、不登校や情緒的な問題が想定される児童をもその支援の対象としている。

昨年度は、11名の心理士が市内22校の小学校を月2回程度訪問するという体制で実施された。昨年度の主な相談の件数を表に示した。前年度と比較して不登校の相談件数が減少しているのは、「なんとなく気になる」という問題の芽の小さいうちに介入できたことで、不登校に発展することなく解決できたことの結果であると考えられる。

3. 昨年度の活動について

巡回相談は、①先生方との相談、②保護者相談、③校内委員への参加の3点をその活動の大きな柱としており、訪問時の活動内容は、各学校の特別支援教育コーディネーターに設定していただいている。

ここでは、巡回相談の活動内容について、昨年度の活動を振り返りつつ紹介していきたい。

表：主訴分類別件数 (単位：件)

	主訴分類	平成19年度	平成20年度
1	発達障害に関する内容	2098(42.4%)	2453(41.2%)
2	性格・行動	690(13.9%)	1162(19.5%)
3	問題行動等	548(11.1%)	548(9.2%)
4	情緒不安定	398(8.0%)	534(9.0%)
5	不登校・登校しぶり	418(8.4%)	358(6.0%)
6	その他	802(16.2%)	900(15.1%)
	計	4954(100.0%)	5955(100.0%)

◆先生方との相談

学校から挙げられた気になる児童の様子を観察し、児童理解や対応に関する先生方からの相談に応じている。巡回相談では、対象児のみならず、その児童が在籍している学級風土、学校・学年の協力体制、保護者との関係、利用可能なサービス資源等を考慮しながら、適切な支援につなげるための見立てを行い、先生方とともに具体的な手立てについて検討を重ねている。

◆保護者相談

担任の先生から相談を勧めていただく場合と、保護者自ら相談を希望される場合とがある。昨年度は、各校で保護者向け

に巡回相談の案内を配布していただいたり、学校だよりで紹介していただいたりする機会に恵まれ、保護者が自主的に相談を希望するケースが増えた。

巡回相談では、保護者相談を通して相談員が把握した事柄を先生方による日々の支援に生かしていただくため、保護者の了解のもと、先生方との情報の共有を進めている。

◆校内委員会への参加

昨年度は、校内委員会や生活指導全体会等にできるだけ参加させていただいた。児童について学校全体で共通理解を図ったり、心理士としての視点を提供したりすることができた。

◆その他の活動

学校によっては、就学時健診の際に入学予定児の様子を見せていただいたり、卒業を控えた六年生について、中学校へ引き継ぐにあたって情報提供を行ったりもした。また、個別指導計画作成への協力を求められた学校もある。就学前から卒業後まで、長期的な視点で子どもの成長を見つめ、継続的な支援を行う流れが徐々に確立しつつあることを実感している。

4. 成果と課題

各校の巡回相談活用状況は、学校事情等により大きく異なる。各校の要望に応じた活用に加え、

他校の取り組みについても知る機会が得られると、さらに充実できるのではないかと考える。

継続的に子どもたちの成長を追い、子どもたちのかかわりが積み重ねられていくことは、巡回相談の活動の喜びである。子どもたちの育ちや支援の足跡を翌年度、さらにその先へとどう残し、どう引き継いでいくかは、今後の課題である。

5. おわりに

ある学級では、担任の先生が気になる児童のために特別な配慮を行うようになったところ、それがすべての子どもへのわかりやすさにつながり、学級全体の学習意欲が向上した。また別のある学級では、担任の先生の児童一人一人の個性を大切にする姿勢が児童にも広がり、学級内に自然と互いの違いを受け入れ助け合う雰囲気生まれた。

このように、特別な配慮を必要とする児童への支援が、結果的に全体につながっているということを巡回相談活動の中で目の当たりにするたびに、これこそが特別支援教育の目指すところだと痛感している。

今年度の巡回相談は、すでに始まっている。学校のよりよいサポーターとなるべく、相談員一同、切磋琢磨していきたい。

⑤特別支援相談室
巡回指導
20年度の活動を振り返って
～一人一人のニーズに合わせた教育を～
巡回指導員
木村 ミチ子



平成21年度 巡回指導員 よろしく お願いいたします

1 はじめに

通常の学級の中に、離席する教師の話が聞けない、友達関係をうまく築くことができないなど、学習面や生活面で特別な教育的支援を必要とする児童・生徒が在籍している。
 巡回指導は、そのような子ども達に学習指導の面から支援をしている。

2 巡回指導実施要領

府中市で「巡回指導」が始まって4年目を迎えた。
 「府中市巡回指導実施要領」には、目的、対象、支援の内容などが明記されている。

「巡回指導」は、通常の学級に在籍する児童・生徒に対し、一人一人の教育ニーズに応じた特別な教育的支援を行うことにより、個に応じた指導を充実することを目的としている。

指導の対象者は、ADHD・LD・高機能自閉症等の発達障害のある、又はあると思われる児童・生徒となっている。
 また、発達障害のある子どもだけでなく、学校や保護者から支援を求められている子どもに関わることもある。

指導時間は、週1回、1時間と短時間ではあるが「継続は力なり」といわれるように、どの児童も行動が落ち着いてくるし、

3 指導員の役割

巡回指導員は7人で、一人3校を担当し、指導にあたった。
ア 担任・コーディネーターとの連携
 ・支援を始める前に対象児童・生徒の様子や指導内容を聞き理解を図った。
 ・支援を終えた時、短時間でもその日の様子を報告した。

イ 授業の補助

教科学習の補充指導や指示の補充、ソーシャルスキル、コミュニケーション能力を高める指導などを行った。
 LDの児童には、つまづいている学習面を把握し指導した。

基礎的な学力が定着してくる。
 子どもへの指導の方法は2通りある。
 一つは、教室での授業において、対象の子どもに寄り添って学習支援をする。
 もう一つは、別室での個別指導による方法である。
 年間を通じて一つの方法で支援する子どもと、学習内容によって変える子どもがいる。
 いずれにしても、担任や保護者と相談の上で決めていく。

4 有効であった 校内委員会との連携

一人の担任がやれることには限度がある。
 そこで、どの学校でも校内委員会を設置し、コーディネーターの先生が運営をリードしている。巡回相談員と共に巡回指導員も構成メンバーの一員として、支援の必要な児童について情報交換をし、指導法や対処法に必要な措置について話し合う。
 指導の必要性に気づいた時点で、担任やコーディネーターが保護者に対応し理解を得る。
 早く支援を始めれば、それだけ児童にとっても負担が軽減し、学習する喜びや学校生活が楽しくなる。

5 活動を振り返って

1年間の活動を振り返ってみると授業中席を離れて立ち歩い

ていた児童が、個別指導によって課題を克服し、学習への興味・関心ももてるようになり、学習に参加できるようになってきた。さらに、先生方の児童理解が深まり、周囲の友だちからも努力を認められ、その子自身が安心していられる場所ができてきた。
 特別支援教育が始まり3年たった今、さらなる充実を図るため、

・発達障害に対する児童理解を深める。
 ・学校との緊密な連携を図る。
 ・個別指導計画作成に協力する。
 ・個に応じた教材教具を工夫する。等に努力し、一人一人の教育ニーズに応じた適切な教育的支援を行っていききたい。

巡回指導数

	18年度	19年度	20年度	21年度	
小学校	1年	10	3	5	0
	2年	4	14	15	20
	3年	8	7	12	27
	4年	5	10	9	16
	5年	6	8	10	11
	6年	2	8	5	14
合計	35	50	56	88	
中学校	1年	0	1	0	1
	2年	2	1	1	0
	3年	0	1	0	0
	合計	2	3	1	1

※注 児童・生徒数は、年度途中からの申込者を含む。

わが校の特色ある教育 NO. 32

豊かな心をはぐくむ 「異年齢（ふれあい）」活動

府中市立日新小学校
校長 上床 美嗣

今年度、教育目標前文を「子供・家庭・地域の願いを受け止め、誇りのもてるふるさと府中を創り、世界に活躍する府中っ子として日々新たに伸びようとする知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供を育成する」と改めた。

そして、基本方針の第一に「多様な人・自然・社会との豊かなかかわりと支え合い」を掲げている。それを具現化するための特色ある教育活動の一つがいわゆる異年齢活動も含めたさまざまな方々とふれ合う活動である。学習指導要領に示されている



「にっしんらんどへようこそ」

保育園児にストラックアウト

今年度からは、春の全校遠足を秋に変更し、午前中のオリエンテーションから昼食までを縦割り班で実施することにして、より一層高学年の自覚と成長を図ることになっている。

二 保育園児との交流

三学期に、学区の二つの保育園年長児を、一年生が生活科「にっしんらんどへようこそ」やふれあい体験給食に招待し交流している。一年生は、二学期に二年生生活科「おまつり大作せん」に招待された経験をもっている。

その経験をもちに、年長児をどうやったら楽しませることができるか考え、計画を立て協力しながらいろいろなゲームを作っている。また、ランチルームを使ってのふれあい体験給食でも、年長児の面倒を一生懸命みている。これらの活動を通して、一年生は自分たちの成長を実感すると共に、二年生になるという自覚をもっている。

また、一・三年生は、四・六年生が校外学習の時に、保護者や祖父母とのふれあい給食を行っている。

PTAの主催ではあるが、夏休みの終わり1週間の校庭でのラジオ体操や、最終土曜日の校舎を使った肝試し大会なども、子どもたちにとっても保護者にとっても様々な保護者や子どもとふれ合う良い機会になっている。

四 地域の方々との活動

四年生は、社会科「安全な暮らし」の発展として、日々子どもたちの安全を守ってくださっている安全ボランティアの方々と「ありがとうランチ」と題する感謝の会を三学期の給食時間に実施している。

創立以来続けている行事に、五年生の水田学習とそこでとれた餅米による餅つき大会がある。PTAの水田委員を中心にお世話して下さってはいるが、地域の方々の応援なくしてはできない行事である。

六年生は、地域の方々の指導を受けて菊作りに取り組み、地域の高齢者施設に届けたり市民文化祭菊華展に出品したりしている。

一 わくわく(縦割り)活動

異年齢活動であるクラブ活動や児童会活動については、学級活動の校内研究と関連させながらその充実を図っているところである。それ以外にも、本校には、異年齢の方々とふれ合う特色ある活動が、大きく四つある。以下にその概要を述べる。

全校縦割り活動であるわくわく活動には、年間7単位時間を充てている。地域社会からは失われた異年齢による様々な活動を通して、社会性や自主性などの豊かな心をはぐくむことをねらっている。

三 保護者との活動

最大の特色が運動会にある。全学年の団体競技が親子競技でしかも得点種目である。児童数

創立以来続けている行事に、五年生の水田学習とそこでとれた餅米による餅つき大会がある。



安全ボランティアと
4年生児童のありがとうランチ

新規採用教員・転入教員対象に 「市内巡り研修会」を実施

指導室では、今年度府中市に転入してきた教員と新規採用教員を対象として、5月12日(火)に市内巡り研修会を実施した。

府中市の教育指針である「府中市学校教育プラン21」には、『府中市を愛する、府中の教員を育てよう』ということが提言されている。郷土府中に愛情や誇りをもつ子どもを育てるには、まず、教員自身が府中市を愛することが大切であり、そのためには、府中市のことをよく知ることが必要である。

この研修会は、新規採用教員等の初任者等研修会も兼ねており、37名が参加、そして転入教員等12名、指導主事2名合計51名が参加して実施された。

バス2台で府中市立教育センターを出発。新緑が映えるけやき並木を抜け、「大國魂神社」前を右折し、旧甲州街道・鎌倉街道を通り、郷土の森博物館に到着した。

◆郷土の森博物館
学芸員から新コーナーとして設置された「こど



「郷土の森博物館」玄関前で

も歴史街道」「体験ステーション」等についての説明があった。これまでにない新しい発想でつくられたコーナーだけに、参加者も熱心に見聞していた。短時間ではあったが、府中の歴史や文化の一端を知る機会となった。

博物館を後にして、浅間山、府中市美術館、生涯学習センターを経由して、ルミエール府中に到着。

◆府中市立中央図書館
施設見学を通して、児童サービス、レファレンス(調査・相談)、リクエスト(予約・とりよせ)サービス等について、図書館の概要を知ることができた。

平成21年度の府中市教育委員会主催の科学教育事業「小・中学生科学教室」と「子どもサイエンススクール」が5月から始まった。

「小・中学生科学教室」と「子どもサイエンススクール」が開講

この事業は、市内在住の児童・生徒に対して科学教育の振興を図ることを趣旨とし、実験・観察を通して科学的な思考力や創造する能力を育成することをねらいとしている。

★「小学生科学教室」は、教育センター科学実験室を主教室として、野外観察を含め年10回実施する。対象は五・六年生50名。

★「中学生科学教室」は、教育センター科学実験室を主教室として、野外観察や見学を含め年10回実施する。

★「子どもサイエンススクール」は、小学校四・五・六年生約30名を対象で年10回実施する。そのうち2回は、「親子サイエンススクール」として行う。

なお、「子どもサイエンススクール」は、市の広報紙「広報ふちゅう」で毎回公募し、電話申し込みで先着30名が参加できる。

小学生科学教室

回	日程	内 容
1	5/16	春の樹木と野鳥の観察
2	6/20	多摩川の自然事前学習
3	6/27	多摩川の自然観察①
4	7/4	雑木林の生物観察
5	9/5	多摩川の自然事前学習
6	9/12	多摩川の自然観察②
7	10/17	ほ乳動物の動きと体
8	11/7	大型動物の観察
9	1/16	国立科学博物館での探究学習
10	2/6	冬の樹木と野鳥の観察

中学生科学教室

回	日程	内 容
1	5/30	天体の運動
2	7/4	天文学習
3	7/12	動物の生態観察
4	8/1	細胞の観察
5	9/19	化学電池
6	10/17	運動の法則Ⅰ
7	10/25	運動の法則Ⅱ
8	11/14	電流と磁界
9	12/5	電磁誘導Ⅰ
10	1/9	電磁誘導Ⅱ

子どもサイエンススクール

回	日程	内 容
1	5/23	ガラス細工Ⅰ (トンボ玉作り)
2	6/13	ガラス細工Ⅱ (マドラー作り)
3	6/27	石けん作り
4	7/11	親子サイエンススクール ハンカチ染め
5	8/29	蒸気船作り
6	9/12	ホバークラフト作り
7	10/10	金属の性質とキーホルダー作り
8	11/7	べっ甲アメ・カルメ焼き作り
9	12/12	親子サイエンススクール ゲルマニウムラジオ作り
10	1/23	不思議な色水・炎・カラーキャンドル作り

6月研修会・委員会等予定	日	曜	研修会・委員会等	会 場	研 修 内 容 等
	1	月		初任者等研修会	教 育 セ ン タ ー
1	月		特別支援学級代表者会	教 育 セ ン タ ー	協議、情報交換
4	木		小学校英語活動推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会 30日も実施
5	金		学校図書館推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会
5	金		I C T活用推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
8	月		食教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
11	木		教務主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
12	金		人権教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会
15	月		生活指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会・ブロック会、小・中各部会
16	火		進路指導主任会	教 育 セ ン タ ー	全体会
19	金		特別支援教育コーディネーター研修	教 育 セ ン タ ー	特別支援教育の体制づくり
25	木		人権教育推進委員会	教 育 セ ン タ ー	全体会・分科会



『環境エコプロジェクト33』に取り組んでいる。ここでの「エコ」は、ご存知のとおり「エコロジー」の略である。エコロジーとは、ドイツの生物学者ヘッケルの造語と言われ、生態学と訳されることが多い。もともとは、生物と環境の相互作用を扱う学問として提唱されたエコロジーだが、20世紀になって、環境破壊や資源・エネルギー枯渇の問題が認識されるようになると、環境保護の運動としての色彩が色濃くなってくる。さらに進んで、近年では「ディープエコロジー」という概念が知られている。これは、ノルウェーの哲学者アルネ・ネスにより提唱されたものである。ネスによると、これまでの環境保護運動では、環境保護は人間の利益のためでもあると理由付けされていたが、ディープエコロジーにおいては環境保護それ自身が目的であり、人間の利益は結果に過ぎないとされる。これまでは、『地球にやさしい』という言

「エコロジー」再考

葉に象徴されるように、「地球のために人間が何かをする」という前提の上に立った環境保護であったが、ディープエコロジーの立場では、もはや「何かのため」という大義名分は必要ではない。このように進化しているエコロジーであるが、最も大切なことはその出発点にあると思う。それは、エコロジー的に考えるということである。立花隆は、『エコロジー的思考のすすめ』という書物を著している。その中で、「生態学それ自体は何も救うことができない。必要なのは、生態学的なものの方である。」と述べている。20世紀の半ば過ぎまで、人類は自然への負荷を顧みることなく、進歩・開発の道を歩んできた。しかし、今になって地球から大きな「しっぺ返し」を受けつつある。「人類は、進歩と繁栄を謳歌しながら、滅亡の淵に向かって行進しつつある。(前掲書)自分本位に振る舞い、自然という他者を大事にしなかった人類に対し、エコロジーは大きく反省を迫ったと言える。エコロジーとは、「他者を尊重すること」なのだと思う。(出典：立花隆著『エコロジー的思考のすすめ』中公文庫)

葉に象徴されるように、「地球のために人間が何かをする」という前提の上に立った環境保護であったが、ディープエコロジーの立場では、もはや「何かのため」という大義名分は必要ではない。このように進化しているエコロジーであるが、最も大切なことはその出発点にあると思う。それは、エコロジー的に考えるということである。立花隆は、『エコロジー的思考のすすめ』という書物を著している。その中で、「生態学それ自体は何も救うことができない。必要なのは、生態学的なものの方である。」と述べている。20世紀の半ば過ぎまで、人類は自然への負荷を顧みることなく、進歩・開発の道を歩んできた。しかし、今になって地球から大きな「しっぺ返し」を受けつつある。「人類は、進歩と繁栄を謳歌しながら、滅亡の淵に向かって行進しつつある。(前掲書)自分本位に振る舞い、自然という他者を大事にしなかった人類に対し、エコロジーは大きく反省を迫ったと言える。エコロジーとは、「他者を尊重すること」なのだと思う。(出典：立花隆著『エコロジー的思考のすすめ』中公文庫)

葉に象徴されるように、「地球のために人間が何かをする」という前提の上に立った環境保護であったが、ディープエコロジーの立場では、もはや「何かのため」という大義名分は必要ではない。このように進化しているエコロジーであるが、最も大切なことはその出発点にあると思う。それは、エコロジー的に考えるということである。立花隆は、『エコロジー的思考のすすめ』という書物を著している。その中で、「生態学それ自体は何も救うことができない。必要なのは、生態学的なものの方である。」と述べている。20世紀の半ば過ぎまで、人類は自然への負荷を顧みることなく、進歩・開発の道を歩んできた。しかし、今になって地球から大きな「しっぺ返し」を受けつつある。「人類は、進歩と繁栄を謳歌しながら、滅亡の淵に向かって行進しつつある。(前掲書)自分本位に振る舞い、自然という他者を大事にしなかった人類に対し、エコロジーは大きく反省を迫ったと言える。エコロジーとは、「他者を尊重すること」なのだと思う。(出典：立花隆著『エコロジー的思考のすすめ』中公文庫)

小学校の総合的な学習の時間の支援活動も行っている。地元自治会や市民団体などの協力を得て組織された当楽校は、魚や植物など専門知識が豊富な人材が活躍している。身近な自然の良さを再発見し、子ども達の豊かな人間性をはぐくむことを期待して今年も活動を行っている。興味のある教職員多数の参加を期待している。

その一つが府中水辺の楽校である。子ども達が、多摩川で楽しみながら水辺の安全ルールを身に付け、自然の大切さを学ぶことを期待している。水辺の草むらにいる魚や水生昆虫を捕まえるガサガサ魚とりをしたり、河原にある石を集めたり、水辺の植物を観察したりと四季を通して多摩川の自然を五感で体験するプログラムを実施している。小学校の総合的な学習の時間の支援活動も行っている。地元自治会や市民団体などの協力を得て組織された当楽校は、魚や植物など専門知識が豊富な人材が活躍している。

府中水辺の楽校の活動を通して 水と緑事業本部公園緑地課 自然保護係長 松本 健 府中市は、浅間山、けやき並木や多摩川など豊かな自然に恵まれていて。その貴重な自然を将来に引継ぐため、市では市民と協働して緑化意識の啓発を図るとともに、身近な自然と触れ合う機会を提供している。

学びの窓

満開の桜に祝福された4月の出会いから、2ヶ月が経過した▼各校の教育活動も、マラソンに例えれば丁度折り返し地点である。新入生や転入生等の新しい環境への適応はどうであろうか。また、特別な教育的支援を必要とする子どもの様子も気になるところである▼「早期発見・早期治療」の有効性は、病気に限られたことではない。子ども一人一人の日々の姿を観察し、記録し、指導に生かすことは、教師自身の子どもを見る眼力を育てることにもなる▼教師としての資質・能力の向上は、「課題発見、課題解決」に欠くことのできないものである。それは、研修と研さんによって培われ、得られるものである▼今年度から始まっている「府中市学校教育プラン21」の第Ⅲ期には、6つの重点課題が示されている。その④として、「ライフステージに応じた教師力の向上」が挙げられている▼教師には、教育に対する情熱と使命感、教育の専門家としての力量、そして、総合的な「人間力」が求められている▼水無月。田植えに多くの水を必要とする月の意という。教師に必要な養分をしっかりと蓄えておきたい。(小澤 宏)

満開の桜に祝福された4月の出会いから、2ヶ月が経過した▼各校の教育活動も、マラソンに例えれば丁度折り返し地点である。新入生や転入生等の新しい環境への適応はどうであろうか。また、特別な教育的支援を必要とする子どもの様子も気になるところである▼「早期発見・早期治療」の有効性は、病気に限られたことではない。子ども一人一人の日々の姿を観察し、記録し、指導に生かすことは、教師自身の子どもを見る眼力を育てることにもなる▼教師としての資質・能力の向上は、「課題発見、課題解決」に欠くことのできないものである。それは、研修と研さんによって培われ、得られるものである▼今年度から始まっている「府中市学校教育プラン21」の第Ⅲ期には、6つの重点課題が示されている。その④として、「ライフステージに応じた教師力の向上」が挙げられている▼教師には、教育に対する情熱と使命感、教育の専門家としての力量、そして、総合的な「人間力」が求められている▼水無月。田植えに多くの水を必要とする月の意という。教師に必要な養分をしっかりと蓄えておきたい。(小澤 宏)

満開の桜に祝福された4月の出会いから、2ヶ月が経過した▼各校の教育活動も、マラソンに例えれば丁度折り返し地点である。新入生や転入生等の新しい環境への適応はどうであろうか。また、特別な教育的支援を必要とする子どもの様子も気になるところである▼「早期発見・早期治療」の有効性は、病気に限られたことではない。子ども一人一人の日々の姿を観察し、記録し、指導に生かすことは、教師自身の子どもを見る眼力を育てることにもなる▼教師としての資質・能力の向上は、「課題発見、課題解決」に欠くことのできないものである。それは、研修と研さんによって培われ、得られるものである▼今年度から始まっている「府中市学校教育プラン21」の第Ⅲ期には、6つの重点課題が示されている。その④として、「ライフステージに応じた教師力の向上」が挙げられている▼教師には、教育に対する情熱と使命感、教育の専門家としての力量、そして、総合的な「人間力」が求められている▼水無月。田植えに多くの水を必要とする月の意という。教師に必要な養分をしっかりと蓄えておきたい。(小澤 宏)

あとがき